第２回 黒部市上下水道料金検討委員会

日 時	令和８年９月４日（金） 14：00～15：30	
場 所	黒部市役所 201 会議室	
議 題	⑴ 第１回委員会に係るご質問・ご意見について ⑵ 上下水道料金改定（案）について	
出席者	委員 （敬称略）	古田俊吉、橋口健児、藤田信幸、松田尚子、 稲澤信一、 亀谷信之、中西由美子、長谷川浩子、柏原友美、福島修
	事務局	小森都市創造部長、橋本都市創造部理事、 能澤上下水道工務課長、佐々木上下水道経営課長、 山本主幹、折川係長、伊藤主任、松儀主任 税理士法人合同経営会計事務所 中津、松田

議事録

１．開会 委員長挨拶	（古田委員長より挨拶）
２．議事 ⑴ 第１回委員会に係るご質問・ご意見について	事務局より、第１回委員会に係るご質問・ご意見について説明
委員長	ただいまの説明について、委員からご質問、ご意見等があればお願いします。 私から１点質問させて頂いてもよろしいでしょうか。 先程の説明の中で、料金の見直し期間を３年から５年に設定したという説明がありましたが、その根拠を伺いたく思います。社会情勢や人口の変化が激しく、長期スパンで計画を立てることが難しいため、市としては ５ 年のスパンで考えているということでよろしいでしょうか。
事務局	本市ではこれまでも概ね ５ 年毎に改定を行ってきております。一般的にも、見直し期間が長くなるほど、予測の確実性が低下するため、３ 年から ５ 年の範囲で算定するものと言われておりますので、その考え方で進めていきたいと思っております。
⑵ 上下水道料金改定（案）について	事務局より、上下水道料金改定（案）について説明
委員長	ただいまの説明について、委員からご質問、ご意見等があればお願いします。 高岡市や富山市等の規模の大きい市では、厳格に減価償却費も原価に含めて全額

	を料金収入で賄い、赤字が発生しないようにしております。一方、小規模な市町村では、一般会計の税収を繰入れし、上下水道事業を経営しております。その中でも一般会計からの繰入れの率等については非常に幅があり、千差万別な状況となっており、黒部市の財政力やこれまでの経緯を踏まえると、一般会計からの繰入金をどのように考えればよいのか、どのような考え方があり得るのかご教示頂きたい。
委員	減価償却については、現金の支出は投資を行った時点で発生しており、減価償却費を計上する時点では新たな現金の支出はありません。そのため、減価償却費に相当する資金は内部留保として残る一方、経理上は費用として計上されるため、損益上はマイナスとなります。 一般企業であれば利益を追求していくため、その点について考えていく必要があるが、黒部市のような自治体ではあまり考えなくてもいいのではないかと思っております。ただし、上下水道事業は企業会計で経営しているため、一般会計からの繰入れというのは良いのかどうか少し考える必要があると思っております。
委員長	非常に重要なご意見だと思います。 一般会計からの繰入れは、無制限に行ってよいというものではありません。繰入れを行えば、その分、例えば図書館の書籍購入費が減る等、他の税の使い道にしわ寄せが生じる可能性があります。一方で、行政の方針によるため、企業会計の考え方で説明があったように、全ての経費を上下水道料金等で賄わなければならないというものでもありません。 この一般会計からの繰入れについては、前々回の料金改定で非常に問題になった部分であり、一般会計からの繰入れをし、県内でも一番安い料金になっているのは、やり過ぎではないかというご意見があった一方で、水の都黒部というのを売りにしている黒部市の水道料金が高くなるのはあり得ないというご意見もあり、紛糾したことがありました。そういったことを経て、現在の上下水道料金に辿り着いたところであります。第 1 回の委員会でもあったように、宇奈月簡易水道等料金が統一されていない非常に難しい課題が残っておりますが、そこはこのような小さな委員会で考えられるような問題ではなく、もっと大きな組織を設置し、市民全体で考え決定していくべき問題だと思っております。 まとめますと、一般会計からの繰入れを前提として考えていいのでないかと思っております。 それでは、意見交換に入りたいと思います。いくつかケースを示して頂いております。ご質問でもご意見でもいいので、ご発言をお願いします。
委員	今回の改定にあたっては、一般会計からの繰入れに頼りきりにするのではなく、市民に

	も少なからず負担していただくという考え方かと思いますが、繰入れの割合をどの程度を基本として、それぞれのケースを用意されたのでしょうか。また、これまでも経営改善の努力をしてこられたかと思いますが、今後の更なる改善の可能性をどこまで見込んだうえで、今回のケースを用意されたのかを確認したいと思います。
事務局	まず、繰入れをどの程度にするか明確な基準があるわけではありません。公営企業としての経済性も当然重要である一方、上下水道には公共の福祉としての性格もありますので、その両面を合わせて考える必要があります。いくらでも繰入れするということではありませんが、経営改善や料金改定を行うことにより、当然繰入れも減少していきます。そのバランスを見ながら進めていきたいと考えております。
委員長	物価がどの程度上がっているのか、工事費や材料費がどれだけ上がっているかということも踏まえる必要があります。無制限にということではなく、そうしたことを考慮した上で、その分ぐらいは一般会計から繰入れしてもよいのではないかと思っております。 道路やダムの建設等あらゆる場面において工事費が上昇しており、管渠や管路等についても物価上昇分を見込まなければ管渠や管路等の更新ができなくなり、地震対策の面でも支障が生じます。近年は大雨による処理能力の増強も必要となってきています。そうしたことを含めて、公共事業として一般会計から繰入れしていくということであり、根拠はあると考えております。
事務局	もう一点、更なる経営改善についてですが、今後の取組みとしては、水道の料金徴収システムについて、市が単独で調達するのではなく広域的にまとめて調達することで調達費を抑えること、早期に漏水を発見して無駄な水を出さないようにすること、下水道については未接続の方への加入促進による新規需要の開拓等が考えられます。料金改定以外の面でも改善に取り組んでいきたいと考えております。
委員	水道と下水道ともに、複数の改定率のケースが示されていますが、市としてはどのケースが妥当と考えているのか教えていただきたいです。
委員長	市の案とどっちを先に出すかですね。委員の皆様はそれぞれ異なる立場を代表していますので、そういった異なる背景にいらっしゃる方々がどのように考えているのかも踏まえてご意見をいただきたいと思います。
事務局	改定をどちらにするかは、委員の皆様にご意見をいただこうと思っております。近年の経済情勢等を踏まえると、上下水道事業の経営は大変厳しい状況にありますが、やはり一般の市民の皆様の生活も大変大事でございます。

	そういった観点を踏まえると、水道事業については５年間トータルで赤字が出ない範囲で、改定率を最も抑えた形が望ましいのではないかという考えは持っております。管路の整備・更新は、年数が経過したから実施するのではなく、毎年の点検・調査をしっかり行い、使用できるものは継続して使用し、必要なものから順次実施することで費用を抑えていくという考えのもと、極力料金を抑えるものとして水道はケース 3 の改定率 32%、下水道はケース３の改定率 10%が望ましいのではないかと考えております。 下水道については国庫補助金により管渠を整備しておりますが、その国庫補助金の一つの目安として、経費の 80%は使用料で回収することとあります。それが全てではありませんが、その経費回収率 80%というものを目指せばどうかということで、最低限の改定率であるケース３が望ましいのではないかと思っております。 資料中には、料金改定を行わない場合の案も示しております。そうした選択肢もあるということも踏まえて、委員の皆様の色々な考えをもってまとめて頂ければと思っております。
委員長	客観的に見ますと、最悪は防がなければいけない（改定を行わないということはあり得ない）という認識を委員会として持っておく必要があるだろうと思います。全く改定を行わないということは、将来にわたって禍根を残すということになります。 一方で、最大限の改定を行うと、現在は物価高騰の中にあり、市民の皆様の生活がかなり苦しいと言われておりますし、地震をはじめ自然災害も各地で発生しており、市民生活に大きな影響が及んでおります。 そうしますと、どこに焦点を当てて考えるかということになります。できるだけ収支への影響がないように、プラスマイナスゼロというぐらいに改定すれば、財務的には非常に助かりますが、その場合は料金が高くなるため、市民の皆様の負担が大きくなるということであります。 一方、上下水道はライフラインとして絶対に確保しなければならないものです。地震の場合でも、大雨の場合でも、テレビで見ておりますと、お風呂に入れないとか、ご飯を炊くのに困る等といったことがあります。そのため、上下水道の確保は絶対不可欠であります。 そうすると、プラスを出すというよりは、マイナスを維持したとしても市民生活を成り立たせるということが重要であります。そういう中で、お考えがある方はご発言いただきたくお願いします。
委員	水道事業の料金回収率について、今回の料金改定を行う上では非常に大事な点の一つではないかと思っております。 収支が逆転しているというのは、事業を行っていく上では通常でない状態だと思いますので、100%に近づけているというのが、事業を行っていく上での最低限のラインではな

	いかと思っております。 このケースがよいとは申しませんが、ケース 2 は料金改定率が 41%であり、一般家庭への影響見込みが 873 円となっております。しかし、この改定率でも、令和 13 年度では料金回収率が 95.1%ということで、100%には届いておりません。一般家庭への影響見込みが 1,000 円を超えると、さすがに厳しいのではないかという考えがありますが、令和 13 年度の 95.1%をなんとか 100%にするには、どれくらいの改定率が必要になるのでしょうか。 1,000 円を超えてしまうと完全に難しいと思いますが、そういったことも考えていただければと思っております。 次に、簡易水道事業の料金回収率については相当厳しい状況であり、今すぐ何か改善できる方法もないと思いますので、100%を目指すという形でいくしかないと思っております。 それと下水道については、経費回収率については、最低限 80%を満たしていくべきだと思っております。ケース 2、ケース 3 であればほぼ 80%を満たせますので、こちらでお願いしたいと思います。不足額が膨大な金額になっているため、その手当というのも大事ではないかと思っております。 それから、少し余談になりますが、下水道について、個人で浄化槽を設置するという点です。今、いくらかの補助金が入っていると思いますが、こういったものを積極的に活用してはどうかと思っております。 それと、今の水道料金が高いか安いかということになりますが、例えば同様のインフラである電気料金と比較すると、水道料金はあまり高いイメージはありません。しかし、水は非常に大切なものであり、例えば水洗便所が突然使えなくなるという場合は非常に困りますので、ほどほどに使用料を上げていくのがよいのではないかと思っております。結局、事業が破綻してしまうとどうしようもなくなってしまうので、柔軟に、また思い切って進めて頂ければと思っております。 あと、先ほど冒頭で、見直し期間を 5 年にされるという説明がありましたが、3 年ぐらいで一度料金改定は別として、見直しについて話だけでもしていただいたほうがよいのではないかと思っております。もしかしたら賃上げ等といった費用が増加する材料も出てくるかもしれませんので、そういった時にまた対応できるようにしておいていただければと思っております。5 年は少し長いように思っております。
委員	黒部市は水が良いから最低料金だろうと、よく話をされております。 県内の状況を見ていても、上下水道は下から 1 番目となっております。今回の料金改定に当たり、例えば水道料金をケース 1 の改定率 52%にすると、ものすごくアップし、県内でも黒部市よりも高い市町が 6 市町ぐらいになってしまい、地域の皆様への説明が非常に難しいと思っております。

	せいぜい水道料金をケース 2 の改定率 41%にしても、富山市よりも高くなることは間違いない状況であります。 また、下水道使用料を見ると、先ほどの事務局からの説明にあったケース 3 の改定率 10%になると、高岡市よりも高くなってしまいます。それで果たして地域の皆様方が納得するのかなと考えますと、やはり富山市よりも安いケース 4 の改定率 7%が良いのではないかと私は思っております。 例えば、水道料金はケース 2 の改定率 41%、下水道使用料はケース 4 の改定率 7%であれば概ね 1,000 円ぐらいの改定額になります。それぐらいであれば 5,000 円と少し負担していたものが 6,000 円と少し負担することになり、上下水道料金合わせて 20%高くなるが、物価上昇等もあり、それぐらいであれば市民の皆様も納得して頂けるのではないかと思っております。あまり細かな説明をしても分からないので、最終的には県内順位と影響額が重要だと思っております。
委員	今話のあった順位については、参考にはなるが、入れ替わりが激しいのではないかと思っております。 先ほど水道料金については、事務局からの説明でケース 3 の改定率 32%が望ましいとありましたが、そうであれば、下水道使用料はどれがいいのかなと聞いておりました。一般家庭の影響額で考えると、ケース 3 の改定率 10%であれば、1,000 円以内の増加額となり、1,000 円を超えない範囲の方が受け入れられやすいのではないかと思っております。
委員	下水道事業について、整備は概ね完了したのでしょうか。まだ完了していないのであれば、今後はどのような事業が残っているのでしょうか。
事務局	今現在、進めている主な事業は概ね 3 つ程あります。 1 つ目は、未普及整備であります。下水道が未整備の地区に下水道管を新たに延伸し、その延伸した管に公共桝を接続し、下水道に加入していただく事業であります。 2 つ目は、市内に 4 か所ある農業集落排水施設について、管及び施設ともに老朽化が著しいことから、公共下水道への統廃合を進める事業であります。 3 つ目は、市内に 3 か所ある処理施設の宇奈月浄化センター、内山浄化センター、黒部浄化センターについて、施設内の機器の老朽化が著しいことから、ストックマネジメントを導入し、機器の老朽度及び全体的な費用を把握している最中であり、こちらの事業についてはもうしばらくかかるものと認識しております。
委員	私の場合は、下水道については、ポンプにメーターを付けていただき、その使用量に対しての下水道使用料を払っている状況であります。メーターの使用量に応じて結構な金

	額になってきておりますので、それに対してあまり引き上げられると厳しいと感じております。やはり全てのものが値上がりしているため、そこはあまり上げてもらいたくないと思いますので、下水道使用料はケース 3 の改定率 10%かケース 4 の改定率 7%がいいかなと思っております。
委員長	県内市町村の料金水準の差は、自然的条件とその他の条件とが重なって生じているものです。 自然的条件というと、例えば高岡市は、96%を県の水を購入して賄っております。一般的に、県東部は地下水含めて水が豊富であるが、県西部は水が少なく、取水費が高くなります。そのため、氷見市や小矢部市が県内順位の上位にあるのは自然的条件があるからです。この料金水準の差は山間部であるか等の自然的条件に応じて決まってくるものであります。 例を言いますと、地域が平野に該当する場合は、山間部から自動的に水が流下します。富山市の八尾のようななだらかな山間部では、水源地や浄水池があれば、平野部にポンプを設置せずに、水を水圧で配水することができます。 また、山間部であれば、配管や浄水を配水するために加圧する等の色々な事象が生じて高くなっていくということであり、人為的に高くしたり、安くしたりしているものではなく、様々な要因が重なって生じているものであります。人為的な条件としては、一般会計から繰入れしている影響があり、個別に厳密に見ていかないと県内順位の比較は難しいものと思っております。 黒部市は水が豊富で水質も良い地域であり、豊富な水を売りにし、しかもこれは全国的にも有名なことであります。このことを市の売りにしていくというのは市にとっては、利益のあることだと思っております。 しかし、経営の面ではかなり厳しくなってきておりますので、今後は経営面から広域化が進んでいき、黒部市としても近い将来に、広域化していく構想を考えていらっしゃるものと思っております。 なお、他市町でも水道料金について値上げしようとする動きがあり、値上げの傾向が大きくなってきているかと思っております。
委員	改定率が追加資料に示されていますが、基本料金や従量料金、メータ使用料といった料金体系の内訳がどうなるのかをお示しいただきたい。 それと、平均的なものとして月の使用量が 20 ㎥として示されておりますが、20 ㎥が一般家庭の平均的な使用量なのかどうかという部分をお示しいただきたい。実際の一般家庭での影響額がいくらになるかということを把握しておかないと、この委員会の説明では 1,000 円程度の増額だと思っていたのに、実際に請求が来たら 1,500 円や 1,800 円の増額だった、といったことにならないように、その部分の細かい説明を、次

	回、資料としてご用意いただきたいと思っております。
委員長	料金水準が決まった後に、基本料金及び従量料金を含む個別の料金表を作成する必要があるかと思いますが、これは次回以降の対応となりますか。
事務局	実態に合わせた個別のシミュレーションについては、次回お示ししたいと考えております。なお、20 ㎥については、黒部市においては使用水量別に見ると、20 ㎥使用している件数が最も多かったため、今回採用させていただいたものであります。
委員	私は一般的な家庭であり、やはり上下水道料金合わせて 1,000 円までの増額かなと思っております。
委員長	一通りお聞きしましたが、最大でもなく最小でもないということで、中間をとって、影響額が 1,000 円程となるケース 3 が、今のところ目安としてよいのではないかと思います。そのため、上水道はケース 3 の改定率 32%、下水道はケース 3 の改定率 10%を一応のベースとしたうえで、料金体系を考えてシミュレーションをしていただき、個別にどこまで調整できるかを検討することとしたいと思います。また、政策的に一般会計からの繰入れをどの程度行うか、今までとは少し社会情勢が異なるため、生活への影響が大きいということも含めて、どの程度、生活が厳しい方々にどのような手当をするかについては、今後の検討課題としたいと思います。事務局の方々としては、こういうまとめ方でよろしいでしょうか。
事務局	はい、それで結構です。
３．その他	事務局より今後のスケジュールについて説明
４．閉会	本日はここまでとさせていただきます。長時間にわたり、ありがとうございました。 以上をもちまして、第 2 回黒部市上下水道料金検討委員会を終了いたします。